

経営比較分析表（令和3年度決算）

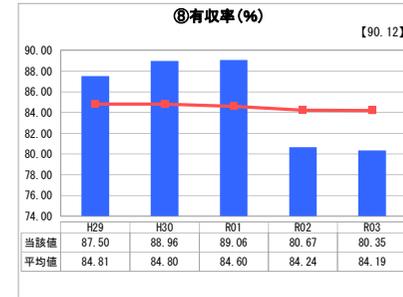
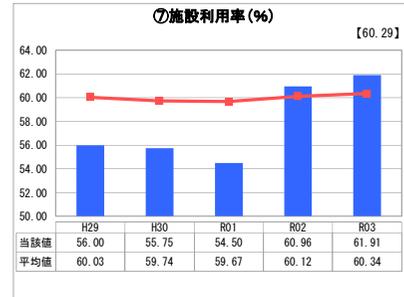
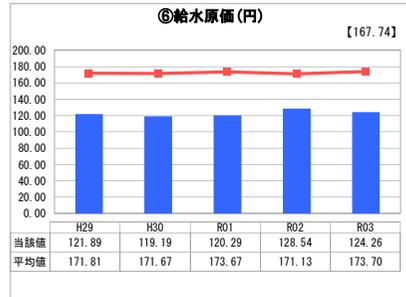
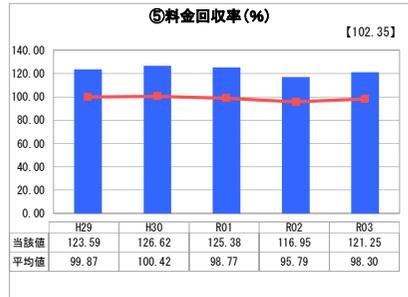
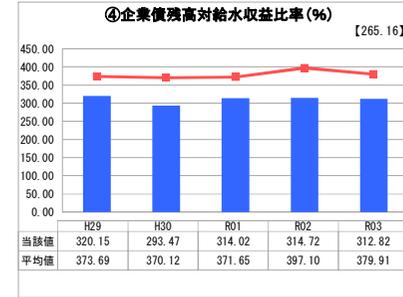
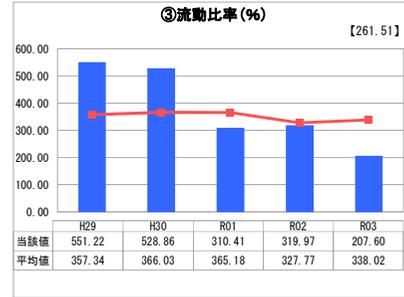
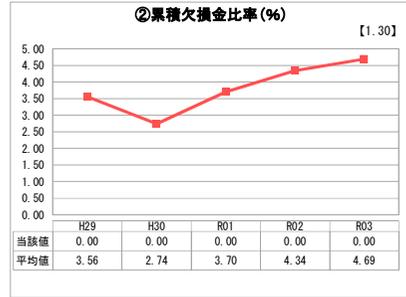
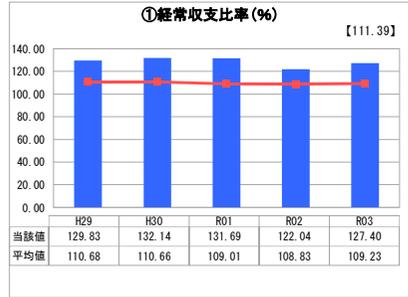
栃木県 壬生町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	71.36	98.75	3,047	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,831	61.06	635.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
38,173	23.73	1,608.64

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

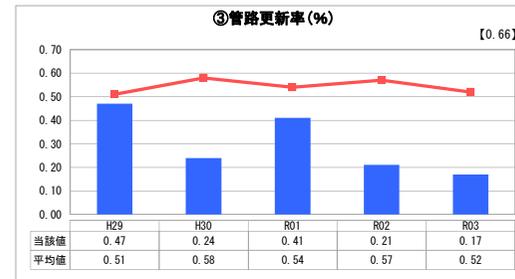
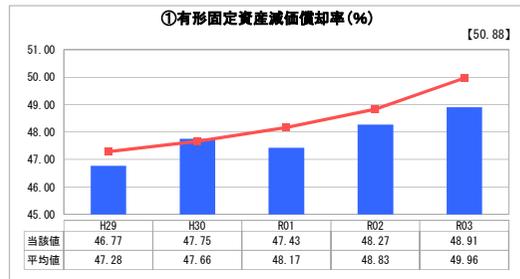
1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」および「⑤料金回収率」は100%を上回っており、健全経営が維持されている。
 「②累積欠損金比率」については、累積欠損金が発生していないため0%が維持できている。
 「③流動比率」については、施設の大規模な更新に伴い未払金が増えたことにより、一時的に数値が下がっているが、指標の目安である100%は上回っており、施設の更新も完了したため、将来的には再び平均水準まで戻っていくものと思われる。
 「④企業債残高対給水収益比率」については前年度と同水準を維持している。
 「⑥給水原価」は、類似団体と比べても低い水準を維持出来ているが、更なる費用の削減や投資の効率化を図る必要がある。
 「⑦施設利用率」については配水設備の更新により平均値を上回っているものの、「⑧有収率」が前年度に引き続き減少しており、全国平均も下回っている状況のため、定期的な漏水調査による不明水の発見に努め、有収率の向上に繋げていきたい。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」および「②管路経年化率」については、平成29年度に策定したアセットマネジメントに基づく更新計画を進めてきたことにより、昨年度より僅かながら増加している。とはいえ、依然全国平均以下であることを踏まえ、引き続き適切な更新を進めていきたい。
 「③管路更新率」については類似団体の平均を下回っているが、管径が太く単価の高い基幹配水管の更新を優先しているためであり、今後も水道施設の長寿命化を図りながら、計画的に更新を実施していく予定である。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営比較分析の結果によると、比較的安定した経営状況が維持出来ている。今後は、水道事業を戦略的に進めていくために、「壬生町水道ビジョン」で策定した「安全」で「強靱」な水道を「安定」的に経営していくことを目指す。